



ベトナムの喉摘失声者に対する食道発声教室開設と発声訓練体制の確立（2022年～2024年）

声帯を失っても「声」は取り戻せる“笑顔が再び”

■ 実施団体：
公益社団法人 銀鈴会

■ 対象国・地域：
ベトナム社会主義共和国
ホーチミン市

■ 現地カウンターパート
ホーチミン市立腫瘍病院



■ 協力内容：

1. 食道発声指導員の資格者の育成
2. ホーチミンにてベトナム人主体の発声訓練教室の開設
3. ベトナム国内にて喉摘者に対する食道発声法の周知

■ 団体のこれまでの取り組み：

銀鈴会は1954年に設立され、発声指導技術を長年培ってきており、喉頭がん、咽頭がん、食道がん、甲状腺がんなどで、声帯を摘出し声を失った人に対し社会復帰を促進する活動をしている。指導する訓練士も同じ喉頭摘出者である。食道発声、電気式人工喉頭（EL）発声などの訓練で声を取り戻すことができる。1994年には喉摘者の発声リハビリが極度に遅れていたアジア諸国を援助協力するために、喉頭摘出者団体アジア連盟の設立に協力。以来、各国から研修生を招いて食道発声を指導したり、また指導員を派遣して現地で指導にあたり、各国の食道発声の普及の促進に努めている。

■ 事業実施の背景：

ベトナムの喉摘失声者数は公表されていないが、生存する喉摘失声者は数千人と推定され、多くは筆談のまま家庭に引きこもり社会復帰できずにいる。喉摘失声者の再発声には、高価な機器を使用しない肉声の食道発声が進められているが、訓練には技術と適切な指導が必要である。しかしベトナムでは訓練のリハビリ体制が整っておらず、喉摘失声者の再発声習得が難しい、といった課題に直面している。

課題と成果

課題：喉摘者の失声後のリハビリ体制が未整備のため、失声者の社会復帰を難しくしている

成果①：ベトナム初の訓練士として、病院スタッフ5名、上級咽頭者3名の合計8名が認定される！

成果②：食道発声マニュアル、食道発声訓練使用教材が完成！

コロナ禍の影響もあり、事業開始当初はオンラインでの指導となり困難もあったが、オンラインでの実施は時間の効率化や交通費の節約、複数人への同時指導等にもつながり、結果的にオンラインと対面のハイブリッドでの研修を確立できたことが、成果につながった。マニュアルや教材は、ベトナムの方が訓練しやすいように、彼らに馴染みのあるベトナムの詩や歌を用いて作成し、現地に根付かせることへ貢献した。

事業の波及効果

！ “発声訓練参加者、その家族へのインパクト”
再び、生きる喜びを感じられるように…

参加者の声「声を失った私に声を取り戻すための方法を熱心に教えてくださり、まるで新しい声を恵んでくださったかのようなです。私と家族の喜びは言葉では言い表せないのです。」

！ “今後の普及発展につながる可能性”
現地の医科大学が食道発声訓練技術に関心

ハイズオン医科大学国際協力・科学技術部の担当者が、本事業の食道発声訓練技術に非常に関心を寄せられ、事業終了後に、担当者から食道発声の教育指導内容について問合せがあった。今後の普及発展につながることを期待したい。